

山口県の産業構造の特徴は、平成22(2010)年度の山口県のGDP(県民経済計算)構成比で見ると、製造業などの第2次産業の割合が36.5%と、全国の25.2%を大きく上回っています。

では、県内を8地域に分けると、どのような特徴があるのでしょうか。今年3月に公表した「市町民経済計算」は県民経済計算を市町ごとに分割した指標で、これを利用すると、地域ごとの数値が分かります。

グラフは、県全体と県内8地域の産業構造を表したものです。各産業の割合を比較したときに、県全体の割合よりも地域の割合が高い場合、その産業がその地域で特に盛んであると見ることができます。

このグラフを産業別にみると、第1次産業は長門及び萩地域で割合が高いことから、同地域では農業や水産業が盛んだと考えられます。第2次産業は周南コンビナートを有し製造業の割合の高い周南地域が、第3次産業は火力発電所を有して電気業の割合の高い柳井地域が盛んなことがわかります。

市町民経済計算を利用して地域別の産業構造をみると、県全体と地域の特徴は必ずしも一致せず、地域ごとに特徴があることがわかります。

このように市町民経済計算は、地域や市町ごとの経済規模や産業構造を知ることができる指標です。ご紹介したものとは違う切り口から、地域や市町の特徴を知ることができます。県民の皆様にもぜひご覧いただけたらと思います。

